

# Loan Portfolio Adjustments of Regional Financial Institutions to Regional Economic Conditions in the Japan's Post-Bubble Period: A Panel Cointegration Analysis

大阪産業大学 石橋 尚平

地域金融機関の貸出金に関するデータと、都道府県の経済成長に関するデータとの間に共和分関係がみられるとしたら、それはある条件の下に両者間に、長期的につかず離れずのゆるやかな均衡関係があるからである。当論文では、そのような共和分関係がみられる地域金融機関は、リレーションシップ・バンキングの一つの機能である「異時点間の平準化」を十分に働かせていないという前提を置く。その上で、1992年度から2007年度の期間に存続していた地域金融機関のデータと県民経済生産のデータを用い、パネル共和分によって、長期の均衡関係の推計を試みた。

その結果、地域金融機関のリスク・プレミアムと名目県内総生産の対数値との間に、共和分関係があることが見いだされた。その後都道府県別の同分析を行い、共和分関係が見いだされた都道府県にどのような特色がみられるのかを、プロビット・モデルを用いて分析した。また日本全体における上記の共和分関係から、短期の動学的変化を加えて誤差修正モデルを推計した。それらの結果から、長期的には、合併や破綻後の事業譲渡などによる地域金融機関の再編が、都道府県の地域金融機関の貸出残高におけるハーフィンダール指数を上昇させたとしても、必ずしも常に地域金融機関の「異時点間の平準化」を機能させるように働くとは限らないことが判った。